

高校地学部同窓生の登山旅行

写真下 果無集落の八重桜と芝桜（撮影は桂）

4月14日(火)午後4時、近鉄八木駅前に7人が集合。雨の中を車で、多武の峯(とおのみね)の談山(たんざん)神社に向かう。

案じたとおり、ここも桜はほぼ終わっていたが、雨後の新緑の下をゆったりと歩いた。

宿の「大和路」で更に二人が合流。久々の再会を喜び合う。



翌15日は奥明日香と呼ばれる稲渕、栢森(かやのもり)を通り、芋峠越えて吉野山に。ミツバツツジの花を浮き立たせて濃淡様々の緑がまぶしい。吉野山も桜は盛りを過ぎ、

写真下 西行庵 霧もかかっているが、そこは天下の吉野山、最盛期を連想させて、それはそれで楽しい。



吉野山の最高峰・青根峰(あおねがみね・851m)を踏んで、五番関トンネル西口へ。ここで昼食。ハシリドコロが咲いていた。この植物は猛毒。瑞々しい柔らかな葉、可愛い花には思わず食指を動かしたくなるが、これを食すと幻覚症状を起こして、所かまわず走り回ると言う。ナス科ハシリドコロ属。漢字は走野老、地下茎は薬用。

十津川への途上で立寄った天河神社ではニリンソウが残っていた。十津川谷瀬(たにぜ)の吊橋で爽快感を味わって玉置神社へ。

ここでレクサスがパンク。高級車の素晴らしさと不便さ(タイヤを置いている店がないのだ)を実感。

下左右とも ハシリドコロ





上 十津川・谷瀬の吊橋

て、静かだが春の息吹を感じさせるたたずまいとなっている。感激した女性が畑仕事に出ようとしているお婆さんを掴まえてツーショットの撮影会。迷惑げな顔もせず快く対応してくれたお婆さん、有難う。

2日目の宿は十津川温泉の昴、食事が美味しかった。

3日目、いよいよ熊野古道小辺路(こへち)の果無(はてなし)峠越え。果無の集落は枝垂れ桜が満開の上、ピンクと白の芝桜が鮮やか、しかもそれが古い民家と不思議に調和し



果無峠から八木尾へ

←ギンリョウソウ(銀竜草)

果無の道では多くの石仏が、石畳を踏みしめながら歩く人々を黙って見守ってくれる。ありがとう。この日は勝浦温泉の浦島に投宿。ここで更に一人が加わって一行は10人に。潮騒を聴きつつ洞窟の湯に体をゆだねた。

4日目は那智大滝の冷気を浴びた後、那智大社と熊野大社とを結ぶ古道の一部＝小雲取越えを歩いた。ここも初夏の雰囲気、ツツドリがのどかな声を響かせ、ギンリョウソウが花を見せている。全員踏破を讃えあつて龍神温泉へ。ここの湯はすべす

べしていて、日本三美人湯の一だそうだが我がパーティーでの効果は如何に・・・。

テンナンショウ→

5日目、高野龍神スカイラインを南から北へ走る。高度はぐんぐん上がり、ついに標高1300メートルを越える。季節の移ろいの撮影フィルムを逆回転させているかのよう。

初夏から春へ、春から初春へ、

モチツツジ→

そして皆で登った1372mの護摩壇山(和歌山県の最高峰)山頂ではまだ木々は冬の装いを脱いではいなかった。

4泊5日の楽しい同窓会登山旅行だった。

←ひとやすみ(小雲取越で) 以上 87号

